

# 研究紀要

研究主題

## 思いや考えを伝え学び合う児童の育成

～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～（3/3年次）

研究教科・領域

国語科，海洋教育（総合的な学習の時間）



### 気仙沼市立気仙沼小学校

〒988-0073 気仙沼市笹が陣3番1号 TEL 0226(22)6966 Fax 0226(22)6967

Email kesenuma-sho@kesenuma.ed.jp URL <http://www.kesenuma.ed.jp/kesenuma-syou>

## あいさつ

平成30年10月1日、京都大学特別教授の本庶佑氏がノーベル医学・生理学賞を受賞したことが発表されました。本庶佑氏は、受賞が発表された後の記者会見で研究者を目指す子どもたちへのメッセージとして「研究者にとっていちばん重要なのは何を知りたいかと思うこと、不思議だと思う心を大切にすることだ。そして、教科書に書いてあることを信じないで、常に疑いを持ち、本当はどうなっているのかという心を大切にすること。自分の目でものを見て納得するまであきらめない、そんな小中学生がぜひ研究の道を志してほしい。」と話していました。これから到来するであろう予測困難な時代に、子どもたち一人一人が未来の創り手となっていくために必要なメッセージが込められているように思いました。

本校では平成28年度から宮城県教育委員会並びに気仙沼市教育委員会から学力向上研究指定校事業の指定を受け、研究実践に取り組んできました。2年7ヶ月の研究実践の中で、学習過程のイメージ図や対話的な学びのモデル図を作成し、改善を加えながら全職員で活用しながら授業づくりに取り組んできました。研究主題・副題である「思いや考えを伝え学び合う児童の育成」～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～は研究の手段であり、研究のゴールは、この手段を駆使した授業改善により子どもたちが変容することです。本日の授業は、その変容した子どもの姿をイメージし、国語科、海洋教育の教科・領域で授業づくりの一つの在り方として提案いたします。

子どもたちが学習者として自らの学びをコントロールし、他者と力を合わせた問題の解決や話し合いによる新たなアイデアの創造をしていくことが、学びの質を高めることにつながるのではないかと考え、全教職員一丸となって取り組んでまいりましたが、本校の研究実践はまだ解決すべき課題を多く残しています。本日御参会の皆様より忌憚のない御意見・御指導をいただければ幸いに存じます。

結びになりますが、本研究を推進するに当たり多大な御指導、御助言を賜りました宮城県教育庁義務教育課、宮城県気仙沼教育事務所、気仙沼市教育委員会、並びに各関係機関の皆様に心から御礼を申し上げ、あいさつといたします。

平成30年11月1日

気仙沼市立気仙沼小学校

校長 千葉 清 人

# 公開研究会日程

8:40	9:15	10:00	10:15	11:00	11:20	12:00	13:00	14:00	14:15	15:45	16:05
受付	提案授業 I	移動	提案授業 II	移動	開会行事	昼食・休憩	分科会	移動	講演会	閉会行事	

## 提案授業 I

教科等	年・組	授業者	単元等
国語科	2-1	教諭 木村 綾奈 	話すこと・聞くこと 「あそびのやくそくを話し合おう」
国語科	4-1	教諭 松岡 恵理 	読むこと 「読書会を開こう『世界一美しいぼくの村』」
海洋教育	3-2	講師 米倉 佑喜 	総合的な学習の時間 「海を生かした地域の産業～シャークナゲットを追って」

## 提案授業 II

教科等	年・組	授業者	単元等
国語科	6-2	教諭 庄司 慶裕 	話すこと・聞くこと 「町の未来をえがこう『町の幸福論』」
国語科	1-1	教諭 熊谷 美幸 	読むこと 「いろいろなおはなしをよもう『おとうとねずみチロ』」
海洋教育	5-1	教諭 渡邊 一磨 	総合的な学習の時間 「海と人との共生について考えよう」

## 開会行事 (体育館)

- 開会の挨拶 気仙沼市教育委員会 教育長 齋藤 益男
- 挨拶 宮城県気仙沼教育事務所 所長 千葉 睦子 様
- 来賓紹介
- 研究概要の説明 気仙沼市立気仙沼小学校 研究主任 教諭 千葉 貴幸

## 分科会

※提案授業ごとにワークショップ形式のグループ討議を取り入れます。

教科等	会場	指導助言者	司会	記録者
国語科 (話すこと・聞くこと)	図画室	宮城県気仙沼教育事務所 副参事(指導主事) 佐藤 恭 様	教諭 熊谷 敦子 教諭 千葉 貴幸	養護教諭 松村 友弥 養護教諭 齊藤 綾
国語科 (読むこと)	かなえ ホール	宮城県気仙沼教育事務所 主任主査(指導主事) 須藤雄一郎 様	教諭 千葉 貴幸	養護教諭 齊藤 綾
海洋教育 (総合的な学習の時間)	第1 理科室	宮城県気仙沼教育事務所 主幹(指導主事) 黒澤かな子 様	主幹教諭 尾形 友道	講師 畑山 光人

\* 司会、記録者はいずれも気仙沼小学校

## 講演会 (体育館)

### 演題「学校の主役は一人一人の子供たち」



講師 藤平 敦 氏

国立教育政策研究所  
生徒指導・進路指導研究センター総括研究官  
学校心理士

- 平成元年4月～平成19年3月 公立高等学校教諭
- 平成19年4月～ 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官

- ・文部科学省「小中一貫教育に関する調査研究協力者会議」「フリースクール等で学ぶ不登校児童生徒への支援モデル事業推進委員会」委員
- ・日本生徒指導学会「いじめ防止対策改善特別委員会」常任委員
- ・東京都教育委員会「東京都教育委員会いじめ問題対策委員会」委員長職務代理者
- ・京都府教育委員会「小学校教育研究会」生徒指導研究推進アドバイザー
- ・国立特別支援教育総合研究所「発達障害の二次障害・適応困難に関する研究」協力者委員

## 閉会行事 (体育館)

- 全体講評 宮城県教育庁義務教育課 指導班 副参事(班長) 指導主事 市岡 良庸 様
- 閉会の挨拶 気仙沼市立気仙沼小学校 校長 千葉 清人

# 研究紀要・学習指導案 目次

あいさつ

気仙沼市立気仙沼小学校 校長 千葉 清人

## I 校内研究の概要 . . . . . 5

## II 学習指導案

### <提案授業Ⅰ>

第2学年1組 国語科（話すこと・聞くこと）

「あそびのやくそくを話し合おう」 . . . . . 1 5

第4学年1組 国語科（読むこと）

「読書会を開こう『世界一美しいぼくの村』」 . . . . . 2 4

第3学年2組 海洋教育（総合的な学習の時間）

「海を生かした地域の産業～シャークナゲットを追って」 . . . . . 3 4

### <提案授業Ⅱ>

第6学年2組 国語科（話すこと・聞くこと）

「町の未来をえがこう『町の幸福論』」 . . . . . 4 4

第1学年1組 国語科（読むこと）

「いろいろなおはなしをよもう『おとうとねずみチロ』」 . . . . . 5 5

第5学年1組 海洋教育（総合的な学習の時間）

「海と人との共生について考えよう」 . . . . . 6 5

## III 教科・領域部の取組 . . . . . 7 5

1 国語部

2 海洋教育部

## IV 専門部の取組 . . . . . 9 8

1 授業研究部

2 調査資料部

3 情報発信部

## V 研究の成果と課題 . . . . . 1 1 9

研究同人

# I 校内研究の概要

## 1 研究主題・副題

「思いや考えを伝え学び合う児童の育成」  
～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の教育課題から

これからの社会の担い手である児童が豊かに生きるためには、絶えず変化する社会の中で自ら学び、課題解決のために自ら必要な知識・技能を身に付けていくことや、見方や考え方の異なる他者と協働しながら課題解決していくことが必要である。また、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成することで、新たな価値につなげることも重視していく必要がある。

このことを踏まえて、本研究では学習指導要領改訂に向けての答申（平成28年12月21日）に示された主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善に努め、思いや考えを伝え学び合う児童を育成していきたいと考えた。

### (2) 学校教育目標から

平成29年12月に校内で「学校目標を作ろうプロジェクト」を立ち上げ、これまでの教育活動の成果・課題や児童の実態、保護者の願い、職員の願い等を踏まえて、学校教育目標を「志に生きる ～夢と誇りを持って未来を切り拓く～」と改定した。目指す児童像は「学び合う子ども」「認め合う子ども」「鍛え合う子ども」と設定し、教育活動のあらゆる場面で他者との協働を重視するようにしている。

本研究において、協働的な授業づくりを通して主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善していくことが、本校の学校教育目標を具現化する上で有効であると考えた。

### (3) 児童の実態から

#### ①全国学力・学習状況調査の結果から

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、国語A問題においては学習指導要領に示された4つの領域のうち、「書くこと」領域の問題の正答率は全国平均の正答率と同等であったが、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域の問題の正答率は全国平均を下回る結果となった。国語B問題においても「話すこと・聞くこと」領域の問題の正答率は全国平均の正答率をやや下回る結果となり、話合いの参加者として質問の意図を捉えることや、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめることに課題があることが明らかになった。算数A問題の結果からは、「図形」領域の問題の正答率が全国平均の正答率を下回っており、図形を調べて気付いたことや疑問に思ったことを適切に表現することができていないことが明らかになった。これらのことから、気付いたことや疑問に思ったことを友達や教師に自分の言葉で伝え、課題解決までの見通しを持ったり、課題解決に向けてペアやグループで話し合ったりする学習活動を重視していく必要があると考えた。

#### ②教研式標準学力検査（CRT-Ⅱ）の結果から

毎年1月に実施している教研式標準学力検査（CRT-Ⅱ）における本校児童の正答率と全国平均の正答率との乖離状況を見ると、下学年においては特に「話すこと・聞くこと」領域の問題の正答率が、上学年においては特に「読むこと」領域の問題の正答

率が全国平均をやや下回っており、日々の授業実践の中で改善を図っていく必要があると考えた。

### ③実態調査アンケートの結果から

実態調査アンケート（6月・11月実施，児童対象）の結果を平成28年度から経年比較すると、「国語の授業で発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問項目に対し、「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合が，学年によって伸びていないことが明らかになった。全体の中で発表する前にペアで考えを伝え合わせることで，自分の意見や考えを整理し，相手に分かりやすく伝えようとするを継続して意識させていくようにしたいと考えた。一方，国語科や算数科，海に関する学習が「将来社会に出た時に役に立つ」と回答した児童の割合はどの学年でも伸びてきている。学習内容と社会で起きている事象との関連に気付かせるような実践を積み重ね，教科・領域の学習の有用性を更に実感させていきたいと考えた。

### （4）昨年度までの取組から

本校では平成28年度から宮城県教育委員会並びに気仙沼市教育委員会から学力向上研究指定校事業の指定を受け，児童の学力向上を目指して研究に取り組んできた。本校では児童の学びの様子や教師の指導上の課題を受け，研究初年度に当たる平成28年度を「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す1年間と位置付け，平成29年度からは，主体的・対話的で深い学びを通して児童にこれからの時代を生き抜く資質・能力を身に付けさせていくことを目指してきた。その際，課題解決のために思いや考えを他者と伝え合いながら学んでいく力を身に付けさせていくことを重視し，主体的・対話的で深い学びの視点に立った不断の授業改善に努めていきたいと考えた。

昨年度は，これまで研究を推進する中で見えてきた「課題解決につながるような児童の気付きや疑問を教師が効果的に取り上げられなかったこと」「対話的な学びの方向性が明確になっていないこと」等の指導上の課題を受け，学習過程イメージ図（別紙2），対話的な学びのモデル図（別紙3）を作成し，全職員で活用しながら授業づくりに取り組むようにしてきた。単元のねらいの達成に迫るために，方向性を明確にした対話的な学びを単元全体の指導計画や1時間の学習過程の中に位置付けるようにし，主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善をしていきたいと考えた。

以上4つの観点から本研究主題を設定した。

## 3 研究主題・副題の捉え

研究主題について	
思いや考え	・児童が持つ疑問や気付き，解決までの見通し。 ・対話等の学習活動を経て新たに生じたり強まったりするもの。
学び合う	・個々の思いや考えを比較したり融合したりして課題解決を目指すこと。
副題について	
主体的	・児童が学習に見通しを持ち，課題解決に向けて意欲的に取り組むこと。
対話的	・児童が課題意識を持つ友達や教師などの他者と関わり，自分一人では気付かないような考えに触れたり，自分の思考を深めたりすること。

深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が各教科・領域に関する個別の知識や技能を身に付け、探究的な学びに向き合い、自己の見方・考え方を広げること。</li> <li>・学びを基に人間性を高め、社会に働き掛ける行動力を養うこと。</li> </ul>
------	--

#### 4 研究目標

思いや考えを伝え学び合わせるための指導の在り方を、授業実践・授業改善を通して明らかにする。

#### 5 研究教科・領域

研究教科：国語科

「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域の指導において、対話的な学びを通して自分の考えが広がったり深まったりすることを積み重ねながら学習を展開していくことは、他者との関わり合いの中で主体的・対話的に深く学ぼうとする意欲を児童に持たせることにつながり、学力向上の素地を形成することが期待できる。

研究領域：海洋教育（主に社会科，理科，生活科，総合的な学習の時間等で実践）

「海と生きる」を復興スローガンに掲げる気仙沼市において、地域の先人が古くから向き合ってきた「海」を教材として扱いながら学習を展開することは、生涯に渡って学び続けようとする学習意欲の構築と主体的・対話的で深い学びの実現につながると期待できる。

#### 6 研究の視点

思いや考えを伝え学び合う児童の育成に迫るために、国語科並びに海洋教育の領域において、次の2つの視点に沿った手立てを工夫しながら学習活動を展開する。

【視点1】主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善

- ア 「つかむ・見通す」段階における思いや考えを持たせる工夫
- イ 「解決する」段階における思いや考えを伝え合わせる工夫
- ウ 「確かめる」段階における学びの成果を実感させる工夫

【視点2】自ら学ぼうとする学習意欲の構築

- ア 「分かる喜び」を味わわせる習得と活用の場の工夫
- イ 「もっと知りたい」を引き出す家庭学習の工夫

#### 7 目指す児童の姿

多様な考えに触れたり共有したりすることで自分の考えを深め、  
進んで学び合おうとする児童

国 語 部	海 洋 教 育 部
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語を通して思いや考えを適切に表現したり理解したりできる児童</li> <li>・人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重することのできる児童</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海的环境や資源，海を取り巻く人や社会とのつながりについての関心を高め，海と共生しようとする考え方と行動力を身に付けた児童</li> </ul>

#### 8 研究の内容と方法

##### (1) 内容

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現を図り、思いや考えを伝え学び合わせるための理論

の整理

- ② 研究の視点に基づいた授業研究会の実施と検討
- ③ 学習意欲を継続させる日常的な指導及び学習環境の整備
- ④ 学力の変容についての調査並びに児童の意識調査

## (2) 方法

- ① 宮城県教育委員会並びに気仙沼市教育委員会指定「学力向上研究指定校事業」の支援の下に、学習指導要領をはじめ、文部科学省や国立教育政策研究所等から示されている資料を分析し、主体的・対話的で深い学びの趣旨や指導内容、方法等についての理解を深めるとともに、講師を招へいして主題に関わる内容の講演や研修を行い、理論研究に関する研究を深める。
- ② 研究組織を生かして協働的に授業づくりに努め、授業研究会を行う。指導案を構想する段階においては、学習過程イメージ図（別紙2）を参考にして児童の思いや願いを課題解決に生かしていくように学習過程を工夫する。課題解決の場面では授業のねらいの達成のために対話的に学ばせることを重視する。その際、授業者は対話的な学びのモデル図（別紙3）に沿って、児童への指示や発問で対話の方向性を明確に示すようにする。
- ③ 全国学力・学習状況調査並びに教研式標準学力検査（CRT-II）の結果の分析と考察を行う。また、児童の学び方の様子の変容を捉えるとともに意識調査を年度内に2回実施し、結果を分析する。
- ④ 小中連携事業の充実に努め、学力向上に向けた取組や研究成果物を気仙沼中学校と共有し、9年間に渡って学力向上を目指していく。

## (3) 研究構想図（別紙1）

## (4) 学習過程のイメージ図（別紙2）

## (5) 対話的な学びのモデル図（別紙3）

## (6) 研究組織（別紙4）

## (7) 検証計画

- ① 6月から11月の間に教科・領域部会で授業研究会を行う。授業研究会には気仙沼中学校の職員にも参加を呼び掛け、授業についての意見交換をする。
- ② 各部の検討会ごとに成果と課題を明確にし、次の授業研究会につなげる。
- ③ 6月と12月に児童対象の意識調査の分析を行い、研究の検証の資料とする。
- ④ 全国学力・学習状況調査、教研式標準学力検査（CRT-II）の結果から研究の検証を行う。
- ⑤ 児童の対話の様子、ノートへの記述、発言やつぶやきの内容を累積したり、写真や動画で学びの様子を撮影して累積したりすることで、児童の学びの様子の変容を検証する。
- ⑥ 職員対象の授業改善アンケートを年度内に3回を行い、研究の検証の資料とする。

## (8) 研究計画（別紙5）

学校教育目標

志に生きる  
～夢と誇りを持って未来を切り拓く～

研究主題・副題

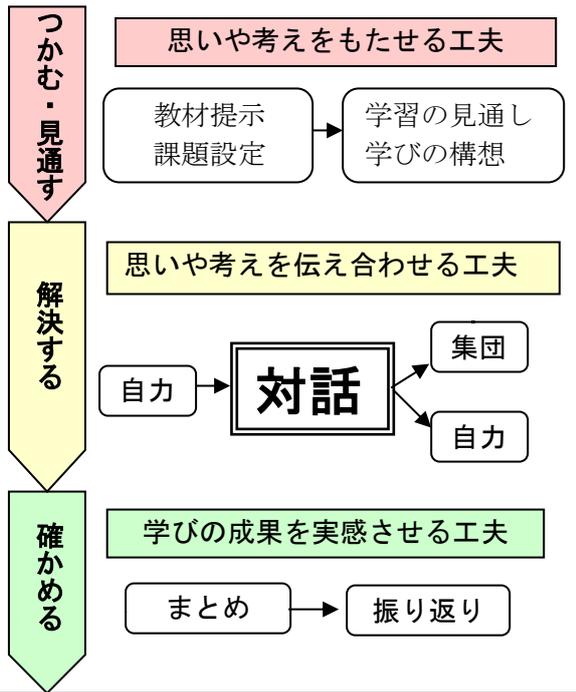
思いや考えを伝え学び合う児童の育成  
～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

目指す児童の姿

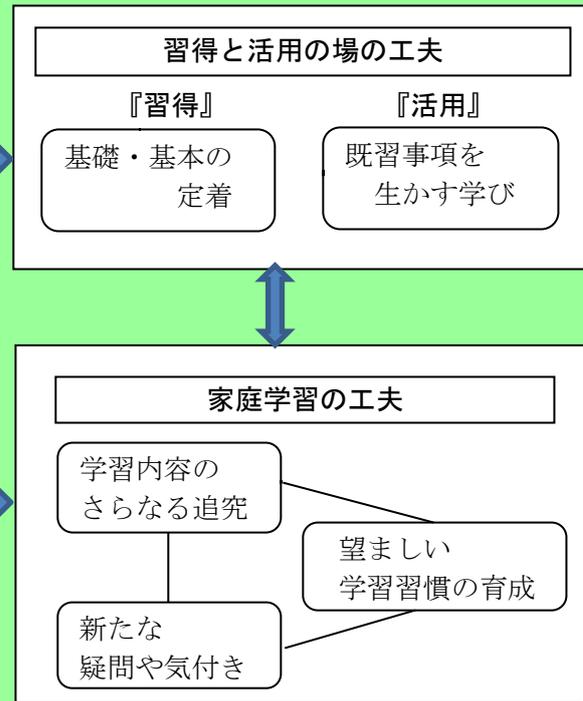
多様な考えに触れたり共有したりすることで自分の考えを深め、進んで学び合おうとする児童

校内研究

視点1 授業改善



視点2 学習意欲の構築



<協働的な授業づくり>

- 「学習過程イメージ図」の作成と活用
- 部会ごとの授業研究会の実施

<対話スキルの育成>

- 「対話的な学びのモデル図」の作成と活用
- 教室の掲示物の充実

<中学校との連携>

- 合同授業研究会の実施
- 研究成果物の共有
- 「自主学習のすすめ」の共同制作

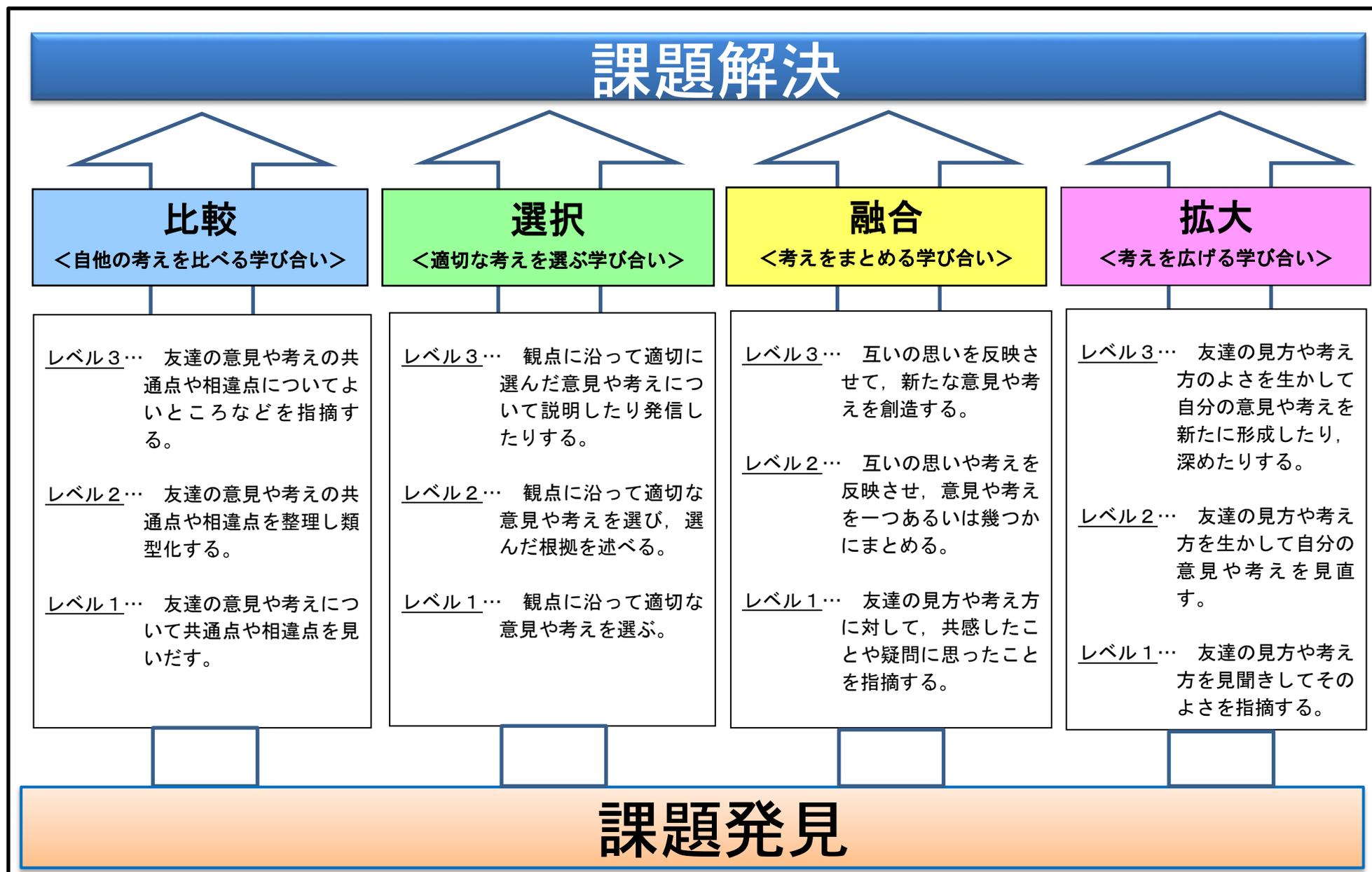
<家庭との連携>

- 気小っちはなまるカード (学びの記録) の活用
- 家庭学習の啓発
- 学校HPの活用

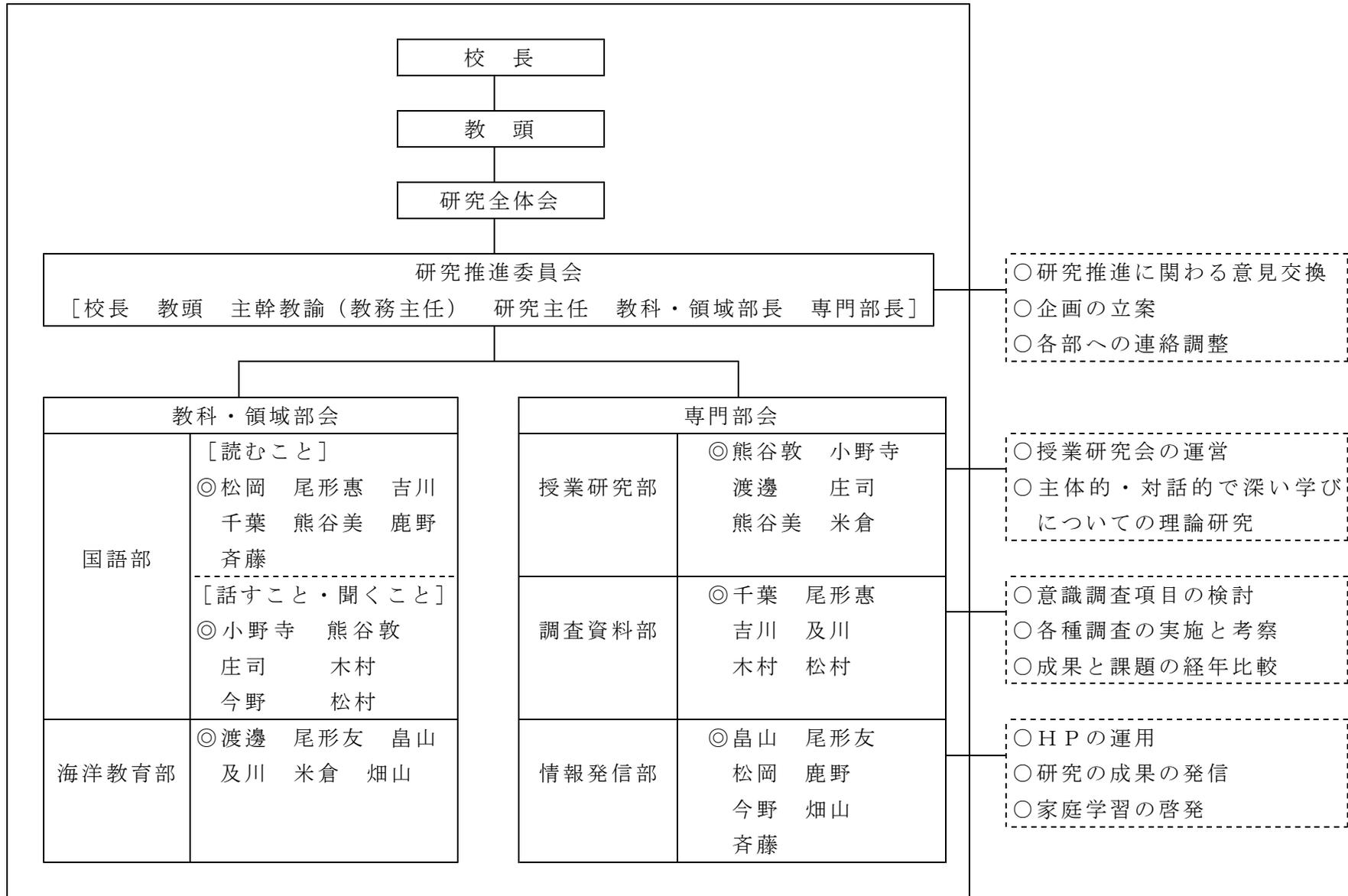
学力向上に向けた土台づくり

別紙2 (学習過程のイメージ図)

段 階	○学習活動のねらい ・ 具体的な発問や指示	児童の活動と反応例						
つかむ	<p style="text-align: center;"><b>&lt;学習課題をつかませる場面&gt;</b></p> <p>○問題場面・状況を把握し、情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何がどうなるお話ですか。</li> <li>・何を求めればよいのですか。</li> <li>・このような体験をしたことがありますか。</li> </ul> <p>○本時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は何ができるようになればいいのだろう。</li> <li>・昨日の勉強との違いはどこだろう。</li> </ul>	ア 思いや考えを持つ						
見通す	<p style="text-align: center;"><b>&lt;見通しを持たせる場面&gt;</b></p> <p>○既習の知識・技能や日常生活での体験・経験を学習課題に関連付け、解決方法や答えの見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この行動はこれまでのお話に出てきたかな。</li> <li>・答えの大きさはどのくらいかな。</li> <li>・どんな方法で確かめたらいいかな。</li> <li>・〇〇君、昨日のノートの振り返りをみんなにも紹介してみよう。</li> </ul>	イ 思いや考えを伝え合う						
解決する	<p style="text-align: center;"><b>&lt;自力解決の場面&gt;</b></p> <p>○自分の考えをノートに自由に表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを分かったところまで書こう。</li> <li>・できるだけ分かりやすく説明する準備もしよう。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>&lt;集団解決の場&gt;</b></p> <p>○方向性を定めた対話的な学びを通して、見方や考え方を広げたり、深めたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>【対話の方向性】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px 10px;">『比較』</td> <td style="padding: 2px 10px;">『選択』</td> <td style="padding: 2px 10px;">『融合』</td> <td style="padding: 2px 10px;">『拡大』</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より早く正確に計算できる考えを選びましょう。</li> <li>・三人の考えを一つにまとめて発表してください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>【学びを深めるために】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px 10px;">『全体での共有へ』</td> <td style="padding: 2px 10px;">『再び個の学びへ』</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすればより簡単に答えを出せるかな。</li> <li>・自分の考えに足りなかったことを書き足しましょう。</li> </ul>	『比較』	『選択』	『融合』	『拡大』	『全体での共有へ』	『再び個の学びへ』	ウ 成果を実感する
『比較』	『選択』	『融合』	『拡大』					
『全体での共有へ』	『再び個の学びへ』							
確かめる	<p style="text-align: center;"><b>&lt;適用問題・振り返りの場&gt;</b></p> <p>○まとめ (新たな見方や考え方) を生かして適用問題に取り組んだり、次時への意欲を持ったりする。</p> <p>○本時の学習課題、課題解決までの見通しに対して、「どのように学んだか」、「何ができるようになったか」について振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに着目して読み取りをしましたか。</li> <li>・今日の勉強を通して何ができるようになりましたか。</li> </ul>	ウ 成果を実感する						



別紙4 (研究組織)



別紙 5 (研究計画)

	平成28年度(1年次)	平成29年度(2年次)	平成30年度(3年次)	
研究主題	思いや考えを伝え学び合う児童の育成			
副 題	～主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～			
主な取組	<p>中間公開研究会 (平成29年1月30日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究主題・副題の設定</li> <li>・児童の実態把握</li> <li>・指導上の課題の整理</li> <li>・研究の方向性の確立</li> <li>・研究組織の立ち上げ</li> <li>○研究の視点に沿った授業実践</li> <li>・各部会の授業研究会</li> <li>・防災教育, 海洋教育単元開発計画の立案</li> </ul>	<p>中間公開研究会 (平成29年11月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実践研究の継続と発展</li> <li>・研究主題, 副題の検討</li> <li>・研究組織の見直し</li> <li>・視点に沿った手立ての有効性の検証及び精選</li> <li>○授業実践とカリキュラム・マネジメント</li> <li>・年間指導計画の改善</li> <li>・基本的な授業モデル(別紙2・3)の立案</li> </ul>	<p>公開研究会 (平成30年11月1日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実践研究の継続と深化</li> <li>・研究主題, 副題の検討</li> <li>・研究組織の見直し</li> <li>・視点に沿った手立ての有効性の検証及び精選</li> <li>○授業実践とカリキュラム・マネジメント</li> <li>・基本的な授業モデル(別紙2・3)の活用</li> <li>○小中連携事業の充実</li> </ul>	
	授業研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究会の実施</li> <li>・教科領域部会における重点指導事項の設定</li> <li>・事前事後の授業検討会を踏まえた指導上の成果と課題の共有化</li> <li>・「アクティブ・ラーニングチェックシート」の作成と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究会の実施</li> <li>・前年度の課題を受け授業改善の方向性を提案</li> <li>・課題解決的な学習課題のイメージ図の作成</li> <li>・授業改善アンケート(教師用)の実施と授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究会の実施</li> <li>・前年度の課題を受け授業改善の方向性を提案</li> <li>・部会または全体での授業研究会並びに成果と課題の焦点化</li> <li>・気仙沼中学校との合同授業研究会</li> </ul>
	調査資料部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国及び宮城県学力・学習状況調査の分析と結果を踏まえた授業改善案の提案</li> <li>○児童の実態調査アンケートの実施と分析</li> <li>・今後育成を目指していく資質・能力の焦点化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査の分析と結果を踏まえた授業改善案の提案</li> <li>○教研式標準学力検査(CRT-II)の結果の分析と考察</li> <li>○児童の実態調査アンケートの実施と分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査の分析と結果を踏まえた授業改善案の提案</li> <li>○教研式標準学力検査(CRT-II)の結果の分析と考察</li> <li>○児童の実態調査アンケートの実施と分析</li> </ul>
情報発信部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習充実のための取組</li> <li>・「気小っ子はなまるカード」の改善と活用</li> <li>・家庭学習紹介コーナーの設置</li> <li>・学習の約束の提案と教室掲示物の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習充実のための取組</li> <li>・「気小っ子はなまるカード」の活用</li> <li>・対話的な学びのモデル図の作成と活用</li> <li>・学習環境の整備(教室掲示・学習の流れ・算数コーナー等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習充実のための取組</li> <li>・「気小っ子はなまるカード」の活用</li> <li>・教材の作成, 充実した教室の運営, 学習意欲向上のための環境整備</li> <li>・学校HPを活用した研究成果の発信と普及</li> </ul>	